

**県内公立学校教育相談担当者アンケート結果
平成25年度 みえ不登校支援ネットワーク**

項目		回答数	割合(%)
1	「みえ不登校支援ネットワーク」(平成22～25年度、文部科学省委託研究事業)をご存知ですか？		
	A	はい	140 95.9
	B	いいえ	6 4.1
	回答なし		0 0.0
2	「みえ不登校支援ネットワーク」の案内チラシ「つながる安心と育ち 学校に行けないとき、行きにくくて苦しいとき」を、今年の7月初旬頃に貴校に送らせていただきました。チラシをどのように扱われたのか、お聞かせください。(本アンケートに同封しております) ※複数回答あり		
	A	全生徒に配布した	103 70.5
	B	特定の生徒(保護者)に配布した	23 15.8
	C	配布していない	10 6.8
	D	チラシのことを知らない	0 0.0
	E	その他	11 7.5
	回答なし		0 0.0
3	不登校の相談を受けた場合、当ネットワークのご紹介についてお聞かせください。(複数回答可)		
	A	ネットワークを紹介した	14 9.6
	B	ネットワークの不登校相談を紹介した	11 7.5
	C	特定のネットワーク参加団体を紹介した	4 2.7
	D	今まで紹介したことがないが今後紹介したい	113 77.4
	E	今後も紹介しない	2 5.1
回答なし		9 6.2	
4	いじめ相談を受けたり、いじめがあることが分かった時の、当ネットワークの「いじめ相談窓口」のご紹介についてお聞かせください。		
	A	紹介した	15 10.3
	B	紹介しなかった	79 54.1
	C	いじめを把握していない	49 33.6
		3 2.1	
5	同封いたしました「いじめの声」について、ご感想をお聞かせください。		
	A	参考になった	127 87.0
	B	参考にならなかった	1 0.7
	C	どちらとも言えない	14 9.6
回答なし		4 2.7	
6	いじめに関わった子どもの声(被害者・加害者・見た人)を集めることは、いじめ対応を考える上で有効なことだと思われますか？		
	A	はい	129 88.4
	B	いいえ	0 0.0
	C	どちらとも言えない	17 11.6
回答なし		0 0.0	
7	いじめを無くすためには、どのようなことが最も必要だと思われますか？		次ページ以降
8	「みえ不登校支援ネットワーク」に対して、ご感想やご要望がございましたらご記入ください。		

送付数	622
返信数	146
返信率(%)	23.5

割合=100×(回答数/返信数)

アンケート 記載欄内容

項目	コメント内容	数
2	教職員への回覧	4
	各教室への掲示	3
	校内の掲示	2
3	適応指導教室	3
4	校内で解決できたため	26
	校内で対応できる状態だと判断したので	23
	他の機関と相談した	4
	被害・加害双方の生徒への直接対応に力を注いだため	2
	チラシを配布したので	2
	スクールカウンセラーや適応教室を紹介したため	2
	ネットワークに相談するほどのいじめはなかった	2
	地理的な問題で紹介しにくい	
「いじめ相談」を意識していなかった		
市教委からのいじめ相談員に関わっていただいたため		
7	アンテナを高くする。一人一人の子どもの様子を把握する。子どもの変化を見逃さない。	27
	生徒・保護者・学校の信頼関係づくり、情報共有	26
	早期発見・早期対応	19
	いのちの大切さや、かけがえのない存在であることを実感させること、自己肯定感を育むこと、自尊感情を育てる教育	19
	子ども同士の間関係づくり、友達と関わる機会を作る、つながる支援、伝えあえる関係を作ること	16
	いじめをゆるさない雰囲気や学校(クラスやクラブでも)で作る	11
	子どもの声に耳を傾ける、子どもに寄り添う	10
	教員が一人で抱え込まないように、だれとでも意見交換できる教師集団を作ること	9
	教育相談の充実、教育相談月間の設定、何でも相談できる体制	6
	日記やアンケート等による定期的な実態の把握	5
	日常的な人権教育の推進	5
	思いやりの心や相手の立場で考えることができるようにする環境づくり、違いを認め合う関係づくり	5
	いじめは絶対にゆるさないという教師の姿勢や指導、社会からのアピール	5
	複数の教員の関わりや見方で、子どもを理解する	4
	いじめはよくないということを、大人が言い続ける、粘り強い指導	4
	保護者の、学校の、全教員の、地域の、子どもを愛する心や見守り	4
	NPOや関係機関との連携	3
	日常的な指導や、いじめについて考える授業をする	3
	コミュニケーション能力育成の機会	3
	何でも話し合うことができる複数の環境づくり	3
	いじめる側の心理的な安定や自己肯定感の確立、加害者のケアや劣等感を取り除くこと	3
	大人が真剣に取り組むこと、積極的に取り組むこと	3
	スポ少、地域、保護者、会社などで、社会全体で人を大切にする倫理観や文化を創り上げる	2
	実態を正しく正確に把握すること	2
	赤ちゃんのころから愛されること、乳幼時期を中心に基本的な信頼感を育てていくこと	2
	マスコミの偏った情報はよくない、マスコミのいじめを誘発する情報を無くすこと	2
	保護者や教員のためのいじめの研修を実施する	2
	家庭の教育力、家庭環境が安定すること	2
	教員にも子どもにもゆとりが必要。教員を増やすこと	2
	教育に携わる人がいじめ問題を正しく理解し、指導法を知る	
	いじめを行う者への適切な指導を行うこと	
	「助けてほしい」と言えること	
	様々な視点からの対応	
	被害者自身が強く生きていく手助けも必要	
	「いじめ」という言葉でレッテルを張ることで、物事を単純に見ようとする背景があるようで心配	
	学校全体として、いじめに対する対応方法を決めておく	
	いじめの声を集めるだけでなく、どう活用するかを考える	

	いじめを受けた人の訴えだけで、いじめた人を罰することができるなど、指導者側の権威を高めるなどの方途も必要。いじめた側がしらをきり通すと何でもできないところがある	
	教師がうわつらの指導しただけで、解決と思わないこと	
	子ども一人ひとりの心地よい居場所づくり	
	学校を開かれた場所にする	
	いじめやいじめにつながるかもしれない言動を認識する力をつけさせる	
	丁寧な聞きとりをもとにした対応	
	教師がいじめやいじめにつながる言動を見抜く力をつけること	
	カウンセラーによるカウンセリング	
	個人としては、いじめに気付く力、伝える力。社会としてはいじめは犯罪だという認識	
	いじめられた人、いじめた人、いじめを見た人の声を子どもたちに伝え、考えさせていくこと	
	大人の社会に見られる「悪」の部分が是正されること	
	子どもがつながれる大人がいること	
	生徒から信頼される大人である行動をとっていくこと	
	いじめる子どもの育っている環境について教員が理解したうえで、寄り添いながら指導する	
	いじめから逃げる力を養う	
	感謝の心、感動する心を育てていく	
	加害者に厳しく指導する	
	いじめを見逃さない意識を育てたり、いじめに立ち向かう勇気を育てる	
	大人同士が良好な関係を作ること、大人の人権意識を磨くこと	
	すべての人におもいやりの心やゆとりが必要	
	携帯やラインのいじめが増えている。大人も含めて情報社会の怖さを具体的に理解していくこと	
	いじめを見つける手立て、見つけた時のアクションが必要	
	傍観者を無くすこと	
	子ども一人一人に関われるような現場の余裕	
	生活指導	
	子どもたちの自分を出せる環境づくり	
8	今後も活動してほしい。連携を深めてほしい	6
	連携できる関係機関として心強く感じる	4
	これからも「いじめの声」の資料を提供してほしい	
	現場に有益な情報をこれからも届けてほしい。	
	悩む子供たちの支援をともにしていきましょう	
	とても有効な機関だと思いました	
	選択肢に厚みが出る取り組みとして注目している	
	具体的な内容が分からないので、具体例を記載したチラシを配布してほしい	
	今後も利用していきたい	
	講演会などにも参加しており、参考になる	
	様々な立場の方の声をすることで、「いじめをゆるさない」ということを子どもたちに伝えることができる	
	保護者の悩みや迷いが子どもの支援に変わっていく様子(事例があれば)、メッセージとして保護者や子どもに伝えてほしい	
	巡回相談があると、津市以外の人でも利用しやすいと思う	
	学校の相談にのってほしい	
	現在は、スクールカウンセラーと県の教育相談を優先し、その次にネットワークの紹介をしている	
	ホームページは当事者・保護者に利用しやすいと思う	
	もっと浸透を図る活動をとるとよいのでは	
	子どもが真剣にポスターを読んでいることがあり、その姿を見て「心に響くメッセージ」に感謝の気持ちが高まる	
ネットワークの活動を、市町の単位まで行ってほしい		

※内容は編集・抜粋したものです

※似た内容のものは、できるだけまとめてあります